

発刊に当たって

急速な情報化や技術革新は我々の生活に質的な変化をもたらし、その影響が身近な生活を含め社会のあらゆる領域に及んでいる今日、すべての子供たちに科学的素養を育んでいくことが重要な課題となっています。

こうした課題を踏まえ、現行の学習指導要領は、小・中・高等学校の系統性に留意しながら、子供たちに科学的に調べる能力や態度を育てるとともに、科学的な見方や考え方を養うこと等に重点を置いており、各学校においては、そのねらいの実現に向け創意工夫を生かした取組が進められています。

一方で、理科の勉強が楽しいと答える中学生や高校生の割合が国際的に見ても低い傾向にあるなど、理科を学習する楽しさや意義の実感等については、更なる充実が求められるところであり、小・中・高等学校教育全体を通した理科好きの子供たちの裾野の拡大が一層求められています。

北海道立教育研究所附属理科教育センターでは、こうした学習指導要領のねらいや子供たちの現状を踏まえ、本道の理科教育の一層の充実を支援するため、観察・実験を中心とした授業改善を推進するための教材や学習プログラムの開発を進めているほか、次期学習指導要領改訂の方向性を踏まえた、理科の授業における主体的・協働的に学ぶ学習の授業法等の実践研究や、本道の地域性を踏まえた各地域における理科教育のネットワークの構築に向けた調査研究にも取り組んでいるところです。

本研究紀要は、平成27年度に当センターの職員及び研究連携校の担当者が取り組んだ調査研究や教材開発等の成果をまとめたものです。

本研究紀要が、各学校の授業改善を目指した様々な取組に生かされ、本道の理科教育の充実・振興に広く役立てられるよう期待します。

平成28年 3 月

北海道立教育研究所長

西 崎 毅